

令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立狭間小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

豊かな心で、自ら考え行動できる子の育成

2 今年度の学校重点目標

期待感のある教育の創造～新しい・難しい・おもしろい～
 (1)よい授業づくり(「協働的な学び」の中で「個別最適な学び」を保障する)
 (2)よい学級の土台づくり(誰もが安心して、笑顔で1日を終える)
 (3)よい学校生活の習慣づくり(「凡事徹底」)
 (4)よい学校のための環境づくり(安全・機能・美観)

3 総合的な自己評価

今年度は、行事の内容や実施方法について制限があるものの水泳指導や泊を伴う行事などほぼ予定通りに実施することができた。3学期からは3年ぶりに保護者や地域の方にボランティアとして学習支援に入っただけでよかった。保護者・児童のアンケートにおいても、全体的に肯定的な評価が多く、総合的な自己評価としては概ね良好と判断できる。来年度も「夢・やさしさ・笑顔あふれる学校」を目指し、学校・家庭・地域が連携してより一層の充実を目指す。

4 総合的な学校関係者評価

見守り活動の際に概ねの児童が明るく挨拶をしてくれる。「夢・やさしさ・笑顔あふれる学校」を目指している通り進んでいると思う。コロナ終息後は再び地域も学校の目標に合わせて微力ですが協力させていただく。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信と情報収集について	定期的、臨時的に学校だより、保健だより、学年通信、HP等を通じて家庭や地域への情報発信に努めた。感染予防の観点から地域に公開するオープンスクールが実施できなかった。	今後も継続して実施すると共に学校ホームページの充実を図り積極的に情報発信していく。また、来年度はオープンスクールを実施する方向で進める。	学校便り、学年通信等は児童や学校の様子、また予定表など見やすく分かりやすい。今後は配布物を紙ベースから電子ベースにしてはどうか。
	住民参加の教育活動について	感染症対策を行いながら3年ぶりに地域の方にミシンボランティアとして学習支援をお世話になった。また、図書ボランティアによる図書室の環境整備、登下校の安全指導など、温かく見守っていただいた。	今後も地域ボランティアの活用を単元構想に位置付けて年間を通じて計画的に行う。コーディネーターの人材発掘及び連携体制を整える。	地域ボランティア等、外部の大人の目が学校内に入ることは重要と感じる。地域ボランティアの学習支援は保護者としても非常にありがたい。今後も継続してほしい。
学習指導	アクティブラーニングを意識した授業の確立について	ふり返りの習慣が定着し、自分が何をどこまで学んだのか、理解が不十分な所を見つめられるようになってきている。「学習に進んで取り組んでいる」「好きな学習がある」という児童が約90%であり、魅力的な授業が子どもたちの評価につながっていると考えられる。	本校児童の実態に合ったGIGAスクール構想の構築(学習ソフト、環境)を推進してきたが、さらに教職員・児童のスキルアップを図る。	「好きな学習がある」児童が90%もいることはとても素晴らしい。残りの10%にどうアプローチするかを検討する必要がある。タブレットの有効活用を期待する。
	思考力・表現力の育成について	タブレットで、自分の意見を書き込んだり、他者の意見や考え方と比べたりする機会を昨年度よりも増やすことができた。その一方で、ペアやグループでの話し合いにはあまり活用ができておらず、今後更に思考力・表現力を高められるような活用を考えていきたい。	来年度は研究テーマを「思考力・判断力・表現力の育成」とし、自分の考えを発表し、他者の意見を聞き、交流する活動を増やすことで思考力や表現力等を高めたい。	算数、外国語、社会などさまざまな学習において国語力が必要になると考えるが、思考力・判断力・表現力の育成に力を入れているのがよい。
学力向上指導改善プラン	家庭学習の習慣の確立と充実について	家庭学習の手引きを使って、自主学習でどんな内容をどんなふう学習したらよいか、学年に応じた方法を児童に具体的に示し指導した。また、漢字・算数ノートコンクールを行い、全校生や保護者が目にする場所に掲示することで、他者の頑張りを認め、自分の学びに活かそうとする意欲につながった。	本校独自の振り返りシートで、家庭学習について振り返る項目を作り、学期ごとに自己評価すると共に、家庭との連携を高める。また、学級懇談会などの機会を通じて保護者への啓発を行う。	ノートコンクールで上手にまとめたノートや自主学習ノートを廊下に掲示するなど児童の学習意欲を高める工夫がたくさん行われている。
	読書活動の推進について	学校司書との連携により年間学習計画で必要な図書をクラスに用意するなどし、調べ学習等読書活動の広がりにつながり、図書を活用する機会が持てた。今年度、家庭読書の定着に向けて「親子読書カード」に取り組んだ。	年々読む本の質・量の向上が見られるが、まだ苦手意識を持つ児童が存在する。学校司書や保護者と連携を図りながら読書活動の推進に努める。	保護者として親子読書を通して改めて読書の大切さに気づかされた。親子読書については何を読めばよいのか迷うところもあり、参考リストがあればよいと感じた。
特別支援教育	特別支援学級在籍児童についての共通理解と支援体制について	年度初め、年度末に在籍児童の状況について共通理解を図り、個に応じた支援のあり方を確認した。年度末には引き継ぎを兼ね、支援方法等の共通理解に努めている。	児童の引継ぎを丁寧に行いながら、特別支援コーディネーターを中心に個に応じた支援体制を強化する。	改善策にもあるように全教職員の共通理解と方向性を共有した連携が大切である。
	普通学級在籍児童で、支援を必要とする児童実態把握と支援について	児童の状況を把握し、保護者と連携しながら巡回相談、外部専門員相談、教育相談等を活用し進めている。支援体制の確認・児童理解のための研修を定期的に行っている。	年度初めに児童理解研修を実施し、全教職員の共通理解のもと同じ方向性をもって指導に当たる。	同じ方向性を持って指導に当たれるように支援体制づくりの充実をお願いしたい。
人権教育	子どもたちの人権意識を高める取り組みについて	「やさしさ発見の日」の啓発や「やさしさ発見朝会」が定着化し、全校生で人権意識を共有する場が持てた。授業公開や校内研修を行い、授業づくりにも力を入れて指導している。	今後も「やさしさ発見の日」や「やさしさ発見朝会」等を活用し、人権意識向上の日常化を図る。	人権について考える機会が多くよいと思う。「やさしさ発見の日」の活動はぜひ続けてほしい。
	保護者への啓発について	年間に5回「人権はさま」を発行し、学年での取り組み内容を伝えている。また、2学期に人権参観日を開催し短時間であったが保護者に見学していただく機会が持てた。	人権懇談会や研修会で保護者と共に意見交流できる機会を持ち、お互いの人権意識の向上を図る。	やさしさ発見、授業参観で保護者と共に人権意識の向上に取組まれていることを大いに評価します。
生徒指導の充実	いじめ防止基本方針に基づく予防的生徒指導について	いじめアンケート、QU アンケート、はさまアンケートの実施により、多角的に児童の現状把握に努めている。委員会や職員会議において毎月各クラスからの報告を情報共有している。	いじめ防止強化週間を設け、学校全体の取り組みを強化するとともに報告・連絡・相談を密に早期対応・情報共有の更なる徹底に努める。	いじめはなかなか表に出てくることはないと思うので、日頃から児童の様子を注意深く見守ってほしい。
	児童についての共通理解と組織的対応について	年度初め、年度末に児童理解研修を行い、全教職員の共通理解を図った。組織的対応を心がけ、個別ケース会議を開催するなど関係機関との連携を図った。	組織体制を強化し、教職員の共通理解のもと必要に応じて個別ケース会議の開催や関係機関との連携を図る。	児童理解研修会を通じて共通理解を図っておられることを大いに評価します。これからも児童の心に寄り添った指導をお願いします。
	基本的な生活習慣と自主性の育成について	外部講師を招聘し、交通安全教室や薬物乱用防止教室、情報モラル教室等を実施し、規範意識の醸成を図った。コロナ禍により今年度は児童によるあいさつ運動を実施できなかった。	学校だより、学年通信、HP等を通じて、積極的な啓発と情報発信を行いながら、保護者との連携を密にし、生活の安定を図る。	折にふれ交通安全の取組などもこれからは地域と一緒に行うのは効果的でないでしょうか。